

第2部 創立41周年から100周年までの歩み

2. OB会の誕生とグリークラブ再興支援活動

創立87周年(平成18年)～89周年(平成20年)

(1) OB会の誕生	152
(2) 休部から復活へ	153
(3) 「ありがとう、ランキン・チャペル」	155
(4) 復活への熱い願いと活動	157
・ 現役サポーターズ奮戦記	157
・ OBによる部員勧誘活動	158
・ 学内誌「SPIRITS」への投稿	159
・ 西南シャントウールの学内練習	160



(1) OB会の誕生 (1996(平成8)年) ～「設立への思いと実現まで」

平成25年6月23日に開催された西南グリーOB会総会に久しぶりに出席した。その席でのOB会長挨拶から、来年(平成26年)はグリー創部95周年、OB合唱団であるシャントウール設立60周年、加えてOB会も設立20周年の節目を迎えることを知り改めて歳月の経過の早さを知らされた。

そう聞くと特にOB会設立に関して深く関わっただけに感慨もひとしおである。折からグリー100周年誌編纂作業が進行中でもあり、OB会設立に関する初期の状況を西南グリーの歴史の中に明確にすることも必要なことと思ひ、記憶にあることを以下に記してみた。

「新月会」これは関西学院グリークラブOB合唱団の名称であると同時に、OB会そのものの名称である。この関学の十八番の曲に「UBoj」があり、関学から全国の大学グリーに広まっていったが、今から20数年前この新月会のメンバーが10年以上の歳月をかけ国内はもとより、チェコスロバキアや東欧諸国にまで手を尽くして「UBoj」のルーツを探るべく調査をしているとの話を聞いた。我々西南グリーでも「UBoj」の何たるかもよく理解しないまま、所謂愛唱歌として歌い継いでいたが、発信元の新月会は強い責任感から調査を続行し平成4年にその楽譜の完成版を全国の希望する合唱団に配布している。

また、この調査結果は「UBoj」のルーツと関西学院グリークラブとしてグリー創部110年となる平成21年5月に「関西学院史研究月例発表」として公にされている。また、関学グリーは学内にグリー専用の「グリークラブホール」を持ち、練習のみに留まらず、歴代の楽譜や音源、歴史上の諸資料等が整備され、現役やOBの憩いの場ともなっている。

前置きが長くなったが私はそのような事を知る度に、西南グリーにOB名簿さえ無い我々の不甲斐無さを強く意識するようになった。OBの数は900とも1,000人とも言われていたが、それぞれが繋がることも無く、辛うじて卒年期別の懇親会が散発的に行われているにすぎなかった。何とかして関学のようなOBの全国組織が出来ないものかと私は強く思い始めた。

OB会組織の立ち上げと同時に、私はOB合唱団西南シャントウールのマネージャーとして、50人体制の合唱団をどう作り上げるかという難題に直面していた。しかしこの二つの問題は同時並行的に解決せざるを得ないと結論づけ、徳永麟之助、的野恭一、内海洋一、内海敬三等の諸先輩を通して私の思いを伝えていった。平成4～5年頃のことであつたと思う。諸先輩方から前向きな返事を受けた後は、準備委員会的な組織もないまま殆ど独断的にことを進めざるを得ない状況であつた。

東京在住の三原秀雄先輩(61期)や森猛先輩(62期)とも連携、上京して協議を行った。東京在住のOBの反応は極めて積極的で私は勇気付けられた。そのような事があって1996(平成8)年5月2日、会則も組織も未完成のまま第1回のOB会を渡辺通り4丁目の福岡トヨタ地下ホールで開催した。OB会というよりも、OB会発足準備決起大会と言った方が適切であつたかも知れない。東京組も参加、当時はまだ60人位はいた現役グリーも参加した。

初代会長については、これまで何かにつけ相談に乗って頂いていた鈴鹿石根先輩(62期)に私の一存でお願いし、内諾を得ていた。何としてもスタートの体制だけでも作り上げようと決心していた。不具合なところは後で走りながらでも改善できると考えていたが、頼りにしていた鈴鹿氏が思いもかけず病気のため急逝された。

植木陽一郎先輩(56期)に急遽会長就任をお願いした。その後は規約や組織作りを会長に委ね、発足総会出席のOB名簿作成や発送は事務局の山元一憲君(70期)に任せて、私は一応役目を終えた。(因みにOB会規約の制定は平成7年1月1日付となっている。)

あれから20年OB会は初代会長の植木氏(56期)以降、後藤氏(48期)、刀根氏(48期)、河野氏(63期)そして現在の黒江氏(65期)へと継承され順調に発展していることは喜ばしい限りである。

嘗て「シャントウールだけがグリーのOBでは無い」という言葉を何度か耳にした。だがOB会が未組織の時にはシャントウールが西南学院グリークラブのOB合唱団として各方面への役割を果たしてきた事は紛れも無い事実であり、OB会創設時の財政基盤の無い時は必要な全ての経費はシャントウールに依っ



(2) 休部から復活へ

Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

て賄われていた。シャントウールのメンバーであるOBとそうでないOBとの間に妙な罅が存在してはならない。西南学院グリークラブの旗のもとに青春の一時を過ごしてきた者は、一様に西南学院グリークラブOB会のメンバーとしてお互いが交流を図り、そして現役グリークラブを支えていくという共通の使命を有していることを忘れてはならない。

先の総会で久し振りにお会いした河野先輩、同期の黒江兄、また日頃からOB会の縁の下で力添えを惜しまない徳永(武)君、飛松(智)君、石松君、山元君、倉地君、窪田君、皆さんの献身的協力に改めて感謝致します。

また、この度このような記述の場を与えて頂いた100周年誌編纂委員会の鈴木、河野両先輩に感謝を申し上げOB会が益々発展していく事を心から祈念致します。

記述者・佐藤 宗一(65期)

(2) 休部から復活へ

平成18年1月唯一の部員である井上貴喜(06期)君の激励を兼ね、指揮者の完戸真人氏は第54回の定期演奏会を開催、グリークラブ休部に至る最後のステージは、支援体制を組んできたOBとの合同で男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」であった。

グリークラブの廃部を懸念していた刀根亨一(48期)は、早急な対策の必要性をシャントウールへ訴え再興運動を促した。これにいち早く呼応したのは、当時シャントウールの指揮者をしていた馬頭経明(59期)やマネージャーの窪田敏博(71期)等で、シャントウールによるグリー再興運動への先駆けとなった。OB会では折から入院中であった後藤照男(48期)に代え、6月のOB総会で急遽刀根亨一(48期)を会長に選出した。

新会長に就任した刀根は、自らの課題として「グリー再興」を掲げると同時に、それを成し遂げるためOB会の活性化を掲げ、OB会役員体制の刷新を求めた。

新体制は会長の刀根のもとに、常任幹事長兼事務局長として河野正海(63期)を選任し、以降二人はグリー再興に向け、学院や大学当局にも積極的に働きかけ再興活動を具体化していった。

この年の7月に開催された、音楽礼拝「ありがとうランキンチャペル」に全国から参集した250名のOB達の胸の中は、きっと無念さと寂しさで一杯だったことであろう。それだけに「西南に再びグリーの灯を!」とのグリー再興にかけるOB達の思いは益々強くなっていった。現役グリーのいなくなった平成18年からは、大学の卒業式、入学式等のセレモニーにはOB合唱団である西南シャントウールが列席し、校歌や、カレッジソングを歌っている。

グリー再興を信じその時のためとの強い思いに駆られ、平成19年2月からシャントウールと80期以降のOB有志の呼びかけで「グリー再興支援募金」が開始された。この募金活動はその後OB会の事業として受け継がれ、平成21年2月まで2年間継続された。

同時に平成18・19・20・21年とOB達も4月2日には、孫のような学生達に混じってキャンパスに立ち、自ら新入部員募集の勧誘活動を行った。

社会情勢の変化、大学自体の男女比率の大きな変化、学生達の価値観の変化、音楽ジャンルの多様化等々の中で、学生達の合唱離れもまた自然の成り行きであったとも言えよう。併せて平成12年以降グリーのメンバーは激減しており、最盛期のような活動は望むべくも無く、西南の学生達はグリーの演奏を聞いたことも無く、グリーに対するイメージすら持たないと言う、部員募集環境としては最悪の状況にあった。

このような状況ではあったが、OB会事務局では、「何とか学内で男声合唱のハーモニーを直接学生達に聞かせる方法な無いものか」と考え、シャントウールの日常練習を、月に1回学内で公開することにした。この事はマスコミにも取り上げられたが、練習が夜間であったため学生達を引き寄せるには至らず、1年余りで中止された。平成20年4月、新入部員獲得のためシャントウールは男子学生寮で校歌指導と称するミニコンサートをを行った。男声合唱経験のある学生寮舎監松崎さんの協力もあり、寮生の石井、山崎、林田、



(2) 休部から復活へ

Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

三澤、及び刀根会長の知人の綾部の5君がグリーの門を叩いてくれた。ここに西南グリーの再興の小さな灯を点すことが出来た。

休部宣言以来2年間、5名の新入部員を得た時の感激は言葉に表し得ない喜びであった。

以降、シャントウールの副指揮者である佐藤棟也(70期)を指導者として、シャントウールメンバーに依る現役サポート体制を構築して歌唱指導を開始した。

その後、江川靖志先生に3年間、堀ミナ子先生に3年間ご指導を受け、学生指揮者による本来の活動が始まったのは2016年からである。

西南学院グリークラブOB会歴代会長

氏名	卒年期	在任期間
植木陽一郎	56期	平成6年5月～平成11年5月
後藤 照男	48期	平成11年6月～平成18年5月
刀根 亨一	48期	平成18年6月～平成23年5月
河野 正海	63期	平成23年6月～平成27年5月
黒江 量二	65期	平成27年6月～現在に至る

主な規約改定

平成7年1月1日	西南学院グリークラブOB会規約制定
平成19年7月7日	役員選任規約の改定
平成21年7月19日	東京支部の設置

現役グリー再興の為のOB会活動状況

日付	活動状況	備考	
2006年 (平成18)	6月	平成18年度OB会総会	刀根会長就任
	7月	「ありがとうランキンチャペル」演奏会	演奏会・懇親会
2007年 (平成19)	2月	グリー再興募金活動実施	90期主体
	3月～4月	卒業式、入学式サービス	シャントウール
		部員募集勧誘	シャントウール・OB会
	4月	学内誌「スピリット」へ投稿	OB会
	5月	OB会公式ホームページ開設	OB会
	6月	院長・学長・学生部との協議会開催	OB会
	7月	シャントウール、大学内での練習を開始	シャントウール
9月	院長と協議会開催	OB会三役	
2008年 (平成20)	1月	グリー再興募金継続(OB会事業へ移行)	OB会
	3月～4月	卒業式、入学式サービス	シャントウール
		オリエンテーションサービス・部員募集	シャントウール・OB会
	4月	碧波寮校歌指導	シャントウール
		入部者5名決定	
		休部解除	
練習再開			
9月	創立90周年記念フェスティバル開催	OB会	
2019(令和元)年 9月	創立100周年記念フェスティバル開催	OB会	



(3) 「ありがとう、ランキン・チャペル」

Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

(3) 「ありがとう、ランキン・チャペル」

2006年(平成18年)7月15日、略称「ありラン」こと「ありがとうランキン・チャペル」の催しに、20才～80才の230名を超えるグリークラブOBが世代を超えて歌声を響かせた。

ランキン・チャペルは1954年に建設され、これまで学院の催しに留まらず、演奏会場等が少なかった福岡での貴重な施設として大切な役割を果たしてきた。しかし築後50年を超えれば老朽化は免れず、2008年春の竣工に向けて新しいチャペルへの建替えが行われることとなった。



50年間にわたり学院の歴史の一端を担ってきたランキン・チャペルの功績を称え、このチャペルにかけがえの無い思い出を持つ者達が集まって、お別れと感謝の集いをすべく大学が企画したものである。

グリーメンにとって、学生時代は学内のどこよりも練習や演奏会のための時間や、エネルギーを注いだ場所、それがランキン・チャペルである。我々85期生は折にふれ福岡に集まり旧交を温め合っていたが、ある日の集いでこのチャペルの建替えのことが話題となり、「建物が無くなる前にもう一度自分達の世代だけでなく、前後の世代も共に歌えないものか」との話となった。

このことを宗教部に持ち掛ける内に、大学側からも「感謝礼拝をしたいので、是非そこで歌わないか」との相談が返ってきた。

そこで、世代を超えグリーOB全体で歌えたら何と素晴らしいことだろうと、85期の福田君達を中心にシャントウールやOB会にアプローチを開始した。幾つかの難しい問題はあったものの、当初予想していた50名を大幅に上回り、最終的には実に250名のOBが全国各地そして海外からもランキン・チャペルに参集した。

チャペルでの感謝礼拝ではステージに乗りきれず、ステージ下のフロアにまでも溢れたOB全員が、「Ah Seinan!」をはじめ黒人霊歌「Ride the Chariot」等を高らかに歌い、参列者と共に西南学院の歴史と共に歩んできた、グリー創立の原点を確認することができた。このように大多数で、かつ世代を超えてグリーメンが歌ったことはこれまでに無かっただけに、参加者の感慨も一入であった。創立以来グリートーン、西南グリースピリットが代々受け継がれていたことを今更ながら確認し、感銘をうけた。感謝礼拝の後は「グリー・ミニコンサート」として、各世代毎に思い出の歌を歌い、終了後の懇親会まで立ち去り難い一日となった。



折から、現役グリークラブはこの年部員が居なくなり、休部の止む無きに至っていた。今日ここに集まった全てのOBが無念さと共に、グリー再興への強い思いを抱き「学院にグリーあってこそその西南」と改めて大学や在校生に強くアピールし、グリー復活を祈らざるを得なかった。

そのことがこの「ありラン」を成功に導いた最大の要因と考える。

同時に、そのことが大きな世代の拡がりの中のOB間の溝を埋め、「グリーはひとつ」というグリーの旗のもとでOB会の結束を促したのではないかと考える。短い準備期間の中で数々の困難を乗り越えられ、OB会やシャントウールの献身的な働きで2年後にグリーが復活出来たことも、まさにマタイによる福音書にもある様に「求めなさい、そうすれば与えられる」という神の導き以外の何物でもなかったと信じている。

記述者 友納 靖史 (85期)





(3) 「ありがとう、ランキン・チャペル」

Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

**“Thank You”
RANKIN CHAPEL**

1954年に建設されたランキン・チャペルは老朽化のため、2008年春の竣工へ向けて、今年より建替え工事が始まります。50年におたつて学院の歴史の一端を継承してランキン・チャペルの功績を称え、「ありがとう」を込めてお返しをしたいと思います。

お一人おひとりのかけがえない、大切なランキン・チャペルの思い出を持ち寄り、新しい未来への希望を共に分かち合いませんか。

2006年7月15日(土)
14:00~15:30 **入場無料**

場 所: 大学ランキン・チャペル
講話者: 田中 輝雄氏 (前西南学院院長・前学長・大学名誉教授)
演 題: 「ランキン・チャペルへの感謝」
出 演: チャペル・クワイア、ハンドベル・クワイア、グリークラブ(OB含む)、大学チャペル・オルガニスト
主 催: 西南学院大学
後 援: 西南学院、西南学院同窓会、西南学院の会

お問い合わせ: 西南学院大学宗務課事務局 TEL: 092-823-3339 <http://www.seinan-gu.ac.jp/>

チラシ

**「ありがとうランキン・チャペル」 2006年7月15日
参加されるグリークラブOBの皆さまへ**

恵みの雨が降り注ぐ季節となりましたが、皆さまにはお元気にお過ごしのことと思います。さて、7月15日に開催される「ありがとうランキン・チャペル」へのOB参加者が210名(6月18日現在)を越えました。西南を卒業してもグリークラブに対する思いを捨てられない方がいかに多くおられるかの証しであると思います。感謝です! 予想を超える多くの方が参加されるため、当日の運営がスムーズに進められるよう、以下のお願いとご案内をさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

★ 緊急のお願い

- 懇親会参加の人数を各代の代表が取りまとめて、ご連絡下さい。
- ご注意: 原則として、「ありがとうランキン・チャペル」参加者が全員参加するものとして予約しますので、参加出来ない方は「懇親会不参加」の通知をメールか電話にて必ずお知らせ下さい。(締め切り: 7月5日まで)

懇親会予定場所: 西南クロスプラザ1F (元西南高校敷地角地・現大学博物館)
会 費: 4000円 時 間: 17:45~19:45

世代を超えたグリーが持つ貴重な機会、今後の現役グリー復活についての提案などもなされます。ぜひ出来る限り全員がご参加下さり、各代等の二次会はこの懇親会後にご計画下さい。会費は各代の代表者がまとめて当日受付にて支払って頂くことがベストですが、各自受付でお支払い下さっても結構です。(但し、事前に申込みされた方で参加出来なかった方がいる場合は、各代で責任をもってお支払い頂きます)

食事の振替について

- 福岡にて集まれる方... 7月2日(日)・9日(日) 15:00~17:00
- 場所: 博多ルーテル教会付 南博幼稚園 812 福岡市博多区須崎町 3-9 (092)291-1276
- ...それ以外の方は、腹式呼吸・発声の思い出、音取りなど各自で出来る限りにおいて練習下さい
- 「ありがとうランキン・チャペル」において歌う曲: 7月15日 14:00~15:30
- ① Ah, Seinan ② She Wants ③ いざ起て戦人よ (アール) Ride the Chariot
- ... 会場の人と共に歌う曲... ① 学院校歌 ② God be 神共にいまして
- 「愛唱歌」を歌う会 18:00頃~17:30頃 それぞれ歌える曲の時に加わって歌います

当日の集合時間(練習のため)と場所について

- 7月15日(土) 11:00a.m. ランキンチャペル・入り口のロビー グリー専用テーブルにて
- 受付開始は10:30a.m.です。パートに分かれての練習・合同練習は、11:00~14:45頃を予定しています。当日のプログラム、練習会場等の情報は受付にて配布します。

当日の服装ご持参品

- 服装: 上は 白系の半そでシャツ(クルーズ...会社等で着ける白系の薄いつラインの入ったシャツも可) 下は 紺か黒のスラックス (チャペルはクーラーがありません・黒子等持参・ネクタイは着用しません)
- 配布した楽譜(当日、催かですが購入も可能です) ○ 昼食・水分補給のペットボトル
- 参加費: 1000円(楽譜印刷代・送代を含む) と 懇親会参加費(同参加者のみ)
- ...楽譜を受け取った方は、当日不参加となっても必ず1000円を同期にお預け下さい!

< 事務局 > 〒812-0022 福岡市博多区神屋町2-17-202
代表: 福田誠司(85期) 090-4090-2177 fukuda09497@nissay.co.jp
○ 懇親会関係: 窪田敏博(71期) 090-1080-9417 kmcy@mx2.tiki.ne.jp
○ 曲集発送関係: 友納清史(85期) 090-9408-9912 pastor@sweet.ocn.ne.jp

プログラム

形式/宗務部長 G.W.パークレー
賛賛/オルガニスト 堀野 まり

前 奏 堀野 まり

オルガン演奏 J.Pachelbel
・神のみわざは、すべてよし

聖 書 朗 読 ヨハネによる福音書第12章24節(新共同訳) 宗務部長 G.W.パークレー

祈 禱 同

讃 美 歌 234番A: むかし主イエスの 李 昇 村 上 隆 太

挨拶 青野 昭子

オルガン演奏 A. Gullmatt
・ノエル「暗き夜に、み子の御影は輝きぬ」による導歌

演 奏 ハンドベル・クワイア
・主 われを愛す W.B. Bradbury
・歌えよ、主の恵み E.O. Excell
・マリアとマルタ Spiritual

合 唱 チャペル・クワイア
・主に向かい喜び歌え G. Palestrina
EXULTATE DEO
・マリアとマルタ Spiritual

合 唱 西南学院グリークラブOB
・Ah, Seinan! 曲: 石丸 寛 詞: A.Graves
・She Wants Brave Noble Men 曲: 石丸 寛 詞: A.Graves
・いざ起て戦人よ J. McGranahan
Song of the Soldier

講 話 「ランキン・チャペルへの感謝」 田中 輝雄氏
(前西南学院院長・前学長・名誉教授)

校 歌 同

讃 美 歌 405番: かみともいまして 同

祝 禱 院長 寺園 喜基

後 奏 宗務部長 G.W.パークレー

報 告 宗務部長 G.W.パークレー

ヨハネによる福音書第12章24節(新共同訳)
はつきり書つておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。
だが、死ねば、多くの実を結ぶ。

西南学院グリークラブ 愛唱歌集

「ありがとうランキン・チャペル」(2006年7月15日) 特別編集版 Index

- ・ 西南学院校歌 水町義夫 作詞 / 島崎赤太郎 作曲 / 石丸 寛 編曲 1
- ・ Ah, Seinan! (西南グリー 第1エール) Alma O'Norean Graves 作詞 / 石丸 寛 作曲 2
- ・ She Wants Brave Noble Men (西南グリー 第2エール) " " 3
- ・ いざ起て戦人よ D.W. Whittle 作詞 (藤井泰一郎 訳) / James McGranahan 作曲 4
- ・ Ride the Chariot Negro Spirituals 黒人聖歌 / 福永福一郎 編曲 6
- ・ Heidenroslein (野ばら) Heinrich Werner / J. W. Von Goethe 11
- ・ Ev'ry Time I Feel the Spirit Negro Spirituals 黒人聖歌 / Arr. William L. Dawson 12
- ・ Aura Lee George R. Poulton / Arr. By Ralph Hunter, Alice Parker and Robert Shaw 16
- ・ U Bej Hugo Badic 作詞 / Ivan pl.Zajc 作曲 (1866) 18
- ・ Vive L'Amour Traditional U.S.A. / Arr. By Alice Parker and Robert Shaw 21
- ・ 斎太郎節 宮城県民謡 / 竹花秀昭 編曲 25
- ・ 故郷 高野匠之 作詞 / 岡野貞一 作曲 / 林雄一郎 編曲 28
- ・ 見あげてごらん夜の星を 永 六輔 作詞 / いずみ たく 作曲 30
- ・ タヤけ小やけ 中村雨紅 作詞 / 草川信 作曲 / 石丸 寛 編曲 32
- ・ 「柳河風俗詩」より『柳河』 北原白秋 作詞 / 多田武彦 作曲 33
- ・ 組曲「雨」より第六曲『雨』 八木重吉 作詞 / 多田武彦 作曲 36
- ・ 遥か友に 磯部 敬 作詞・作曲 / 林 雄一郎 編曲 38
- ・ Gaudemus ドイツ民謡 39
- ・ 「月光とピエロ」より I. 『月夜』 堀口大学 作詞 / 清水 脩 作曲 40
- ・ II. 『秋のピエロ』 " 42
- ・ V. 『月光とピエロとピエレットの鹿草模様』 " 45
- ・ 「富士山」より『I 作品第壹巻』 草野平 作詞 / 多田武彦 作曲 48
- ・ 「富士山」より『V 作品第貳拾巻』 " " 54
- ・ Bright College Years H. S. Durand / Carl Wilhelm 58
- ・ さよならね 加藤省吾 作詞 / 中村伸一郎 作曲 / 荒谷俊治 編曲 59
- ・ God Be With You Till We Meet Again (讃美歌: 神共にいまして) 60



(4) 復活への熱い願いと活動

・現役サポーターズ奮戦記 ～歌の力を信じて～

2013年のOB会総会で現役グリーの支援策が種々承認されたが、当時の河野正海会長(63期)から、西南シャントウールの有志8人(①佐藤棟也[70期]②高川弘幸[70期]③山元一憲[70期]④窪田敏博[71期]⑤倉地 進[71期]⑥中垣 登[72期]⑦中嶋恒生[73期]⑧山口 聡[75期]の各氏)がサポーターに任命され、外部指導者の堀ミナ子先生をバックアップする形で、それまでよりも密接に現役と関わることとなった。

2016年は復活グリーにとって大きな節目になったと思う。2008年のリバイバルコンサート以来外部の専門家に指導を仰いできたが、自分達で学生指揮者を選び、自立した本来のクラブ活動を目指す方向へ舵を切った年であった。2013年から3年間、親身になってご指導をいただいた堀ミナ子先生には事前にその旨をお伝えした。「お考えには賛成ですが現状を見る限り大変ですよ、困ったことがあったらいつでも声を掛けてください」と温かい言葉をいただいた。

改めて当時の黒江量二 OB会長(65期)の下、テクニカルなサポートを中心とする「テクニカルサポーターズ」が立ち上げられた。黒江会長、野間利博事務局長(81期)にも全面的なバックアップをお願いした。当時のサポーターズメンバーは①佐藤棟也[70期]②山元一憲[70期]③窪田敏博[71期]④山下博英[71期]⑤倉地 進[71期]⑥中垣 登[72期]⑦中嶋恒生[73期]⑧梶原博司[74期]⑨山口 聡[75期]⑩宮地 純[83期]のシャントウールメンバー10名である。

自主路線初年度の目的は、合唱活動並びにクラブ運営に必要な基本ノウハウを習得し、社会人への足がかりにもしてもらったことだったが、孫ほどにも違う年齢差と時代の変遷、クラブの歴史と伝統のDNAが途絶えた代償は小さくなく、現役諸君とのコミュニケーションはOBの熱い思いとは裏腹に空回りした。改めて、それぞれの立場を理解することの難しさ、そして忍耐力の大切さを思い知らされた。何よりも、突然背中を押されて未知の世界である指揮者を任された泉昂史郎君(18期)と、彼を支えた同期生3名の苦労は如何ばかりであったかと今更のように慮られる。

ともあれ10人のサポーターズが2班に分かれ、それぞれに指揮者経験者が入り、自主性を尊重しながら月曜と水曜の練習日に加わり、水曜日にはOB主導の時間を60分取らせてもらうなどしてこの年の定期演奏会を目指した。そしてある日の打合わせ会、現役からOBの指導法への不満が率直に出された時は、まさに青天の霹靂であった。しかし、そのことで本音の議論ができ、意思疎通が一步前進した。後に泉君が就職した年、同期代表でということOB宛に丁寧な手紙をもらった。「当時は大変だったが、いろんなことを学ばせてもらった。」と感謝の念を伝えてくれた。その時のうれしさは格別なものだった。

2017年からは、現役諸君の頑張りの中で必要な打合わせ等をタイムリーに行うことを心掛けながら見守り型のバックアップを行った。現役指導者の育成など課題を引きずりながらも、久世安俊氏のヴォイストレーニング、植村和彦氏のピアノ伴奏など献身的な協力に支えられ2019年の創立100周年を迎えることができた。復活後は、新入部員が10名程入部し総勢20名程に膨らんだ年もあったが、創立100周年記念フェスティバルのステージに立った現役は13名。復活へ向けての正念場は正にこれからである。

これまで多くのグリーメンが陰になり日向になりながら熱い思いで西南学院グリークラブの歴史を繋いでくれた。そしてそこには「感動の共有」を与えてくれる「歌の力」があり、我々には「男声合唱の魅力」までも添えてくれた。

現在のテクニカルサポーターズは、2019年に西南シャントウール指揮者の高嶋裕二氏(76期)が加わり、①山元一憲(70期)②窪田敏博(71期)③倉地 進(71期)④梶原博司(74期)⑤山口聡(75期)⑥高嶋裕二(76期)⑦豊福純生(78期)⑧松尾有記(18期)各氏の布陣となっている。

この先苦難の道がまだまだ続こうとも、現役あつてのOB達は試行錯誤しながら、現役としぶとく向き合って彼等を支えて行くことだろう。「歌の力」を信じて……。

最後になりましたが、復活当初より2021年までサポートに携わり、学生時代とシャントウールでの指揮者経験を存分に発揮して頂きました佐藤棟也氏[70期]が、2021年9月逝去されました。これまでのご功労に敬意を表し、心よりご冥福をお祈りいたします。

倉地 進(71期)



(4) 復活への熱い願いと活動

Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

● OB による部員勧誘活動 ● 朝日新聞 2008年4月7日夕刊

新入生を勧誘する西南学院グリークラブのOBたち。2日、福岡市早良区の西南学院大



06年休部「西南学院グリークラブ」

出会いの季節、4月。西南学院大(福岡市早良区)のキャンパスは、新入生と、サークル勧誘の先輩たちであふれていた。そのプールの一つに、ひときわ目立つ白髪の紳士たちがいた。彼らは大正期創立の男声合唱団「西南学院グリークラブ」のOB。伝統あるクラブなのに部員が入らず、2年間休部となっているクラブの危機を見かねて、孫ほどの年の新人を獲得しようと呼び奔走している。

(永井真紗子)

大正8年創部、県外高で勧誘

部員約70人、平均年齢60代半ばのOB合唱団「西南学院トウール」。男声合唱団の灯を消してはならないと昨年から活動を始めた。昨年は3人

の入学希望者がいたが、「現役部員ゼロ」におののき、入部には至らなかったという。今年こそ、との思いで、今月1日の入学式にはOB約30人が集まって歌を披露した。1人が正式に入部の届けを出したが、活動再開にはあと何人かの入部が必要。OB会の河野正海幹事長(67)は「拘束や上下関係を嫌う傾向が強

く、サークルに入りたがらない。少ない人数でも活動が再開できれば、きっと合唱の楽しさが伝わっていくと思うのだが」と語る。

学内では女声合唱団も休部状態。唯一合唱系で活動している宗教部チャペルクワイア

(混声合唱)の小山公平さん

(3年)は「現役部員がいないと勧誘はつらいはず」と話す。それでも、OB会はあきらめていない。最高齢の刀根亨一会長(79)は3月、宮崎市に飛び、宮崎学園高校など合唱の実力校4校を回った。合唱部員の進学先に西南学院大を勧めてもらうためだ。大学の運営母体である西南学院には、合唱推薦枠の創設をかけた。刀根会長は「同じ目標を持って何かを頑張る4年間は卒業後の宝になる。OBとして長期戦略で部の復活をめざしたい」と話す。

福岡市内の他大学でも福岡大や九州産業大の男声合唱は10人前後に部員が減少。九産大は数年前から女性部員を入れて混声合唱団になることで生き残りをはかっている。

合唱団再興 OB奔走

同グリークラブは旧制西南学院中の創立から3年後、1919(大正8)年に誕生した。戦後、大学のサークルとして発展。入学式、卒業式での校歌演奏などを担当し、宗教曲から邦人作品、民謡など幅広い合唱曲に取り組んできた。一時は100人を超す部員がいたが、女子が増えて学生の男女比が逆転した03年から新入部員が途絶え、06年3月に最後の部員が大学を去って休部を余儀なくされた。

その一方で、OBの活動が再開する。OBの活動が再開する。OBの活動が再開する。



・学内誌「SPIRITS」への投稿

グリークラブ再興の為の新入部員勧誘においての障害の一つが、現役の学生達にグリークラブのイメージが無いことであった。グリーの衰退時期や休部時期に入学した現役学生達に、それを求めるのは酷であることをOB達は思い知らされた。

そこでOB会は学内誌「SPIRITS」にグリー再興の必要性を投稿した。以下はその投稿文面である。

西南に再びグリーの歌声を！

学院のチャペルが老朽化のため取り壊され、新しく立て直されるに際し52年間に及ぶ学院や地域への貢献に感謝しようと「ありがとうランキン・チャペル」という催しが、昨年7月15日に行われました。私共グリークラブOBも全国から馳せ参じ、250名の大男声合唱で旧チャペルへの別れを惜しみました。

西南学院グリークラブは、1919年(大正8年)の創部ですから本年で87年の歴史を有し、学院の90年の歴史を考えれば、正に学院と歩みを共にしてきた西南を代表するクラブであり、全国の大学合唱団の中でも常に上位にランクされる男声合唱団でした。

大学合唱団のおかれた全国的な傾向とは言え、グリーも10年程前から部員数は漸減しており、特にここ5年程は部員不足から従前のような形での演奏が出来なくなっていましたので、現在西南に学ぶ学生の皆さんには往時のグリークラブのイメージは描き難いかも知れませんし、「グリーって何」ということなのかも知れません。

本来グリーとは音楽的には「無伴奏の男声合唱」を指し、グリークラブとは無伴奏の男声四部合唱で、キリスト教系大学の合唱団であり、かつ宗教曲を歌うことが条件とされていたと言われます。そうであれば、西南学院グリークラブはこれらの条件を完全に具備した合唱団であるといえますし、西南には欠くことの出来ない合唱団だとも言えます。

今は余暇の楽しみ方も、音楽そのものに対する取り組みも多様化しています。しかし私共OBが脈々と歌い継ぎ、守り続けてきた西南学院における男声合唱の文化を失くすことは考えられないことであり、「西南からグリーの灯を消すべきでない」との熱い思いを持ってグリー再興への動きをOB会は行っています。

男声合唱のもつ重厚なハーモニー、ダイナミックな歌声は、一度経験すると生涯の感激となり、社会に出て一時的に合唱を離れたとしても、いつの日か又「心の故郷」「青春の日の感激」を求めて合唱を再開する人々は多く、特に西南グリーOBで組織する西南シャントウールも、平均年齢65歳を過ぎたメンバーが集い活躍しています。

90年近い西南グリーの歴史と伝統を守り、これを未来へ引き継いでいくという行為は、4年間の学生生活の中での得難い体験として実社会に出て必ず役立つでしょうし、合唱を通じて多くの人間関係、連帯感を学んでください。ともに肩を組み、男声合唱の醍醐味を味わおうではありませんか。入部を心よりお待ちしております。



(4) 復活への熱い願いと活動

Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

● 西南シャントウールの学内練習 ● 西日本新聞 2007年9月20日夕刊



学生に歌声を届けようと、大学内で練習に取り組む西南シャントウールのメンバーたち
福岡市早良区、西南学院大

歌声復活へOB朗々

名門復活へOBが奮闘。部員の減少で休部となった西南学院大（福岡市早良区）の男声合唱サークル「西南学院グリークラブ」を復活させようと、クラブOBらで構成する合唱団「西南シャントウール」が立ち上がった。学生に合唱の魅力を知ってもらうため、七月から月に一回、学内の音楽室で公開練習をしている。歌声に乗せた伝統クラブ再生の願いは学生たちに届くだろうか。

部員減で06年休部 西南大グリークラブ

グリークラブは学院創 ころから趣味の多様な 立から三年後の一九一九 年で減少。OBの一人は (大正八)年に創部。大 「週五日の練習という負 担の重さも敬遠の理由だ 学によると、学内の文化 系サークルでは最古級 しろ」と話す。 一九五二年度から毎 年で何度も上位入賞する 年、開催した定期演奏会 など全国に知られた存在 は二〇〇五年度が最後 だった。 〇六年三月に最後の一人 が卒業して休部になっ た。 さらに、成果を挙げる には百二十人以上の部員が 在籍したが、二〇〇〇年 このためOBが支援を 出た。 シャントウールメンバ ーでグリークラブOB会 長の刀根亨一さん(68)は 「孫のような学生たちに 働き掛けるのは難しい。 だが、われわれの目が黒 いうちに何とか伝統のク ラブをよみがえらせた たい」と意気込んでいる。

「伝統守れ」公開練習

四、五回の練習のうち一 回を学内で公開練習とし て始めた。十二月に定期 演奏会を控えていること もあり、約五十人が毎月 第二木曜の夜に、重厚な ハーモニーを響かせてい る。